



災害後の 報道の 役割とは

“被災者ファースト”の伝え方を考える

災害後には、さまざまなメディアが被災地を訪れ報道します。被害の状況を伝える重要なツールとなる一方、報道されなかった場所が取り残されたり、その内容によっては被災者がさらに痛みを受けたりすることもあります。当事者となつたり、その思いを伝える報道のあり方について元河北新報の記者・寺島氏が語ります。

日時

11月2日(土)

午後2時～3時30分

(受付開始 午後1時45分)

場所

**浜松市防災学習センター
3F 講座室**

浜松市中区山下町192番地

申込方法

以下のいずれかの方法でお申込みください。

① 電話 **053-474-8555**

(受付時間 9:30～17:00)

② 浜松市防災学習センター窓口

③ ホームページ上の
お申し込みフォームから

[https://hamamatsu-bousai.
entetsuassist-dms.com/](https://hamamatsu-bousai.entetsuassist-dms.com/)



講師

寺島 英弥 氏

(ローカルジャーナリスト、尚綱学院大客員教授)

1957年福島県相馬市出身、早大法学部卒、元河北新報編集委員。東日本大震災、福島第1原発事故の被災地取材を続け、主著に「悲から生をつむぐ河北新報編集委員の震災記録300日」(講談社)、「福島第1原発事故7年避難指示解除後を生きる」(明石書店)など。新潮社「フォーサイト」に被災地ルポを連載中。

対象

どなたでも

お気軽にご参加ください。

問合せ

浜松市防災学習センター

053-474-8555

参加費

無料

定員

40名